様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	幼年発達支援コース ／木村　直子

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され，教員の研究費配分も厳しくなってきており，教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで，科研費申請に向けて，あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1．目標・計画

科研費申請に向けて考えているテーマと計画は以下の3点である。
①平成20年より採択している文部科学省科学研究費【若手研究（B）課題番号：20730367「チームアプローチのための乳幼児期の自閉症スペクトラム行動特性に関する基礎的研究」】が最終年度に当たる。しっかりとまとめ、次年度以降の研究に結び付けられるように努める。
②共同研究【就学前の子どもの学びと育ちを支える包括的プログラムに関する研究】で、何らかの外部資金を獲得できるよう努める。
③現在中断している子どものウェルビーイングに関する研究で次年度の科研費にアプライするための、下準備を行う。

2．点検・評価

科研費申請に関連した計画は以下の通り遂行した。
①平成20年より採択している文部科学省科学研究費【若手研究（B）課題番号：20730367「チームアプローチのための乳幼児期の自閉症スペクトラム行動特性に関する基礎的研究」】が最終年度として、研究結果を複数の学会で公表すると同時に、現在、報告書としてまとめている。次年度以降、現場にフィードバックすると同時に、研究成果を踏まえ大学院のフィールド研究に結び付けたいと考えている。
②共同研究【就学前の子どもの学びと育ちを支える包括的プログラムに関する研究】を科研費（萌芽研究）にアプライした。
③現在中断している子どものウェルビーイングに関する研究を、科研費（若手研究）にアプライした。研究協力機関等からも許可を頂いている。

Ⅰ－2．大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で，あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか，具体的に示してほしい。

1．目標・計画

本専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足については、充足できている年度と、数名充足に達していない年度が存在している。これまでは、講師という立場を弁え、教授・準教授の指示・指導を受けながら、側面的なサポートしか行えていなかった。本年度については、引き続き、積極的に講座の教授・準教授に指示を仰ぎつつ、自分にできることを主体的に取り組んでいこうと考えている。具体的には、以下の4点である。
①鳴門市の企画総務課及び幼年に関わる保育担当課を中心に積極的に働きかけ、鳴門市の現職の保育士さん方に昼夜開講の大学院に進学してもらうことを目指す。
②幼年発達支援コースの特性を生かし、個人のキャリアアップや地域の子育て力アップを目指して、子育てによって仕事を中断している、ないしは専業主婦をターゲットに大学院への進学を促す。
③これまでに進学歴のある大学を中心に説明会や進学を進める手紙などを送付する。
④学会の大会などに参加し、進学意欲のありそうな学生に声をかける。

2．点検・評価

①鳴門市の企画総務課及び幼年に関わる保育担当課を中心に積極的に働きかけ、鳴門市の現職の保育士及び公立幼稚園教諭92名に、昼夜開講の大学院の案内と文書を手渡した。
②幼年発達支援コースの特性を生かし、個人のキャリアアップや地域の子育て力アップを目指して、子育てによって仕事を中断している、ないしは専業主婦をターゲットに大学院への進学を促すための方策をコース内の教員と協議中である。現在は、ベビーケアマッサージの資格を出すことを申請機関とともに検討している段階まできた。
③これまでに進学歴のある大学を中心に説明会や進学を進める手紙などを送付した。
④日本社会病理学会全国大会において、進学意欲のありそうな学生に声をかけた。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

○学生が主体的に授業に参加できるよう、討論やライブスーパーヴィジョン等を取り入れた対話型の授業を行いたい。
○複数担当の授業に関しては、講義内容の関連付けができるよう、具体的かつ実際的な連携を図る。
○学生の進路、学習や将来に関する悩みなどに随時応じることによって、学生の充実した教育環境を整えるよう努めたい。
○教授・准教授の先生方から教育・学生生活支援の方法を学び、今後の教育・学生生活支援のあり方に役立てたい。

2．点検・評価

○学生が主体的に授業に参加できるよう、討論やライブスーパーヴィジョン等を取り入れた対話型の授業を行った。
○複数担当の授業に関しては、講義内容の関連付けができるよう、同じワークシートを用いた連携授業を試みた。
○学生の進路、学習や将来に関する悩みなどに随時応じた。
○教授・准教授の先生方から教育・学生生活支援について相談助言を頂きながら、複数の教員間での連携を強化した。
○大学に登校しづらい学生に積極的に働きかけた。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

○研究結果の公表・公開を積極的に行う。
○学内外の研究助成の公募に積極的に申請し、特に学外資金の調達に重点を置く。
○講座の教授・準教授の先生方の研究を参考にして、幼年発達支援講座の講師として適切な研究テーマにより、研究を進める。
○学内外の先生と連携して、幼年発達支援コースの学部生・院生、さらには地域の関係機関に還元できるような研究テーマに取り組んでいきたい。

2．点検・評価

○全国保育士養成協議会及び日本社会病理学会において研究結果の公表・公開を行った。
○科研費の若手研究に代表者として、萌芽研究に分担者として応募した。
○学内の研究プロジェクトに分担者として応募した。
○「赤ちゃんサロン」と称し、地域の0歳児とその保護者を対象とした子育て支援活動を開始し、大学のプロジェクト経費を頂き、より発展的に実施できた。その中で、乳児からの学びの連続性や乳児の自発的な学びという新たな研究テーマの芽を育んだ。
○公開講座「ベビーケアマッサージ」や鳴門市子育て支援拠点へ「出前子育て講座」を通して、0歳児とその保護者を対象とした子育て支援について実践研究を行った。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

〇学部教務委員として、学部のカリキュラムや長期履修大学院生のカリキュラム、また全学的に開設している保育士養成のカリキュラムについて、整理し、円滑な教務運営ができるよう努める。
〇大学運営に関して積極的に関心を払う。
〇講師という役職上、大学運営等に関しては、知識や経験も浅く、主体的に動くことは難しいが、積極的に講座の教授・準教授に指示を仰ぎ、前向きに取り組みたい。
〇大学院の定員充足のために、講師という立場でできることを考え、前向きに取り組みたい。

2．点検・評価

〇学部教務委員として、保育士養成のカリキュラムについて、整理した申し合わせ事項に関する文書を作成し、コース内及び教務との円滑な教務運営ができるよう努めた。
〇学部教務委員として至らない点もあるが、コース及び専修の学生によりよい教育環境を提供できるよう日々努力している。
〇大学院の定員充足のための取り組みに力を入れた。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

〇幼稚園や保育所、子育て支援センターにおいて発達障害の早期発見及び早期療育について助言したり、実施する機会をもつ。
〇幼年発達支援という講座の冠に適した地域貢献を実行する。
〇講座の教授・準教授の先生方の附属学校や社会との連携活動の方法に積極的に関心を払い、それを参考にし、今後の自分の活動に役立てたい
〇附属学校教員との連携に関する具体的な活動に関しては、講座の教授・準教授に積極的に指示を仰ぎながら、前向きに取り組みたい。

2．点検・評価

〇芝原保育所へ教育支援アドバイザーとして出向き、助言指導を行った。
〇「赤ちゃんサロン」と称し、地域の0歳児とその保護者を対象とした子育て支援活動を開始した。
〇公開講座「ベビーケアマッサージ」を行い、地域の0歳児とその保護者を対象とした子育て支援活動を行った。
〇鳴門市子育て支援拠点へ「出前子育て講座」に出向いた。
〇徳島市国公立私立幼稚園合同研修会にて研修を行った。「自然プロジェクト」及び「赤ちゃんサロン」の実施に際して、附属学校教員と連携し、助言指導を頂いている。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

本年度に関しては、地域の子育て機関（保育園・幼稚園・子育て支援拠点）と密な関係性を築けるよう積極的に出向き、本学における子育て支援活動を軌道にのせるなど社会貢献に力を入れた。次年度以降も、この子育て支援活動をより発展させ、教育に活かすとともに、実践活動を活動レベルから、研究レベルまで引き上げられるよう精進していきたいと考えている。また、社会貢献に出向く機会が増えたことから、大学院への進学を各機関に依頼することも円滑に行えた。次年度以降も、社会貢献や大学運営により一層の力を入れると同時に、学生への教育及び研究に主眼をおきたいと考えている。